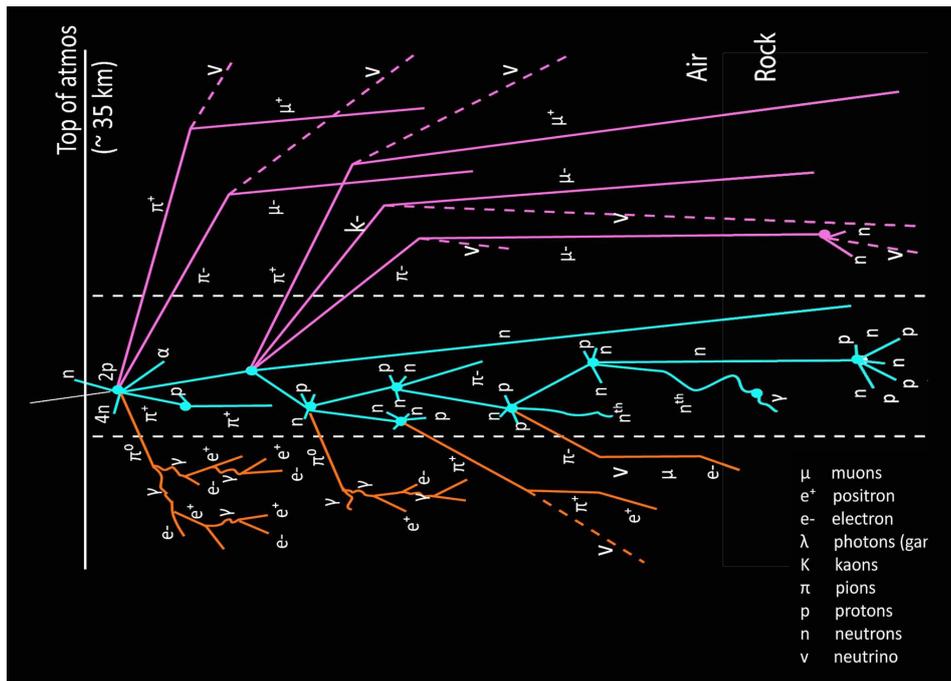


〈引込線／放射線 | Absorption/Radiation〉

サテライト企画のご案内

2019.09.08-2020.03.31



宇宙線分裂放射概念図

〈引込線／放射線〉は、場所と会期の限定された会場から脱し、複数の「場＝サテライト」において、2019年9月から2020年3月まで、さまざまな実験的試みを断続的に実施します。ここでの「サテライト＝衛星」の概念は、展示という方法にかぎられません。それが〈場〉と〈時〉において引き込むこと／放射することの試みでもあるならば、物理的スケールも現実と表象の区分さえも超えることができるかもしれません。宇宙を周回する人工衛星の運動性を仮想的に孕んだサテライトのフロンティアは、たとえば一時的なパフォーマンス、一人の頭の中で行われる思考実験、インターネット上のコミュニケーション、顕微鏡や望遠鏡でみる出来事、そしてそれらの記録にいたるまで、重なり合いゆく協働をとおして、既知の空間的・時間的位相を超えて、拡がりつづけます。

すでに始まっている企画として、勝俣涼による批評のwebメディア「TANGENT」(<http://tan-gent.net/>)や、奥誠之によるロッカーを使った常設展示「ロッカー・アパートメント・ギャラリー」(企画：四谷未確認スタジオ)などがあります。また、本企画が本格的に始動する12月には、カフェの屋根裏を使った連続個展企画「屋根裏の衛星」、イギリス人アーティスト James Howard による個展「不安障害 +」、過去の引込線参加作家によるグループ展「距離と伝達」などを開催。来年には、引込線／放射線ボランティアスタッフが企画するトークイベント、東京・神楽坂にあるギャラリー、Maki Fine Arts でのサテライト企画も予定しています。

2020年3月まで放射しつづける運動の数々を是非ご覧下さい(最新の情報は「引込線／放射線サテライト」のInstagramアカウント @hikikomihousha_satellite にて更新します)。

2019.12.07-2020.03.30

「屋根裏の衛星」

12月7日-12月30日 山口時世
1月0日-2月3日 中村大地(屋根裏ハイツ)
2月7日-3月2日 うらあやか
3月7日-3月30日 市川明子

日時：11:30-18:00(火曜・貸切時休廊)

場所：Cafe Hammock

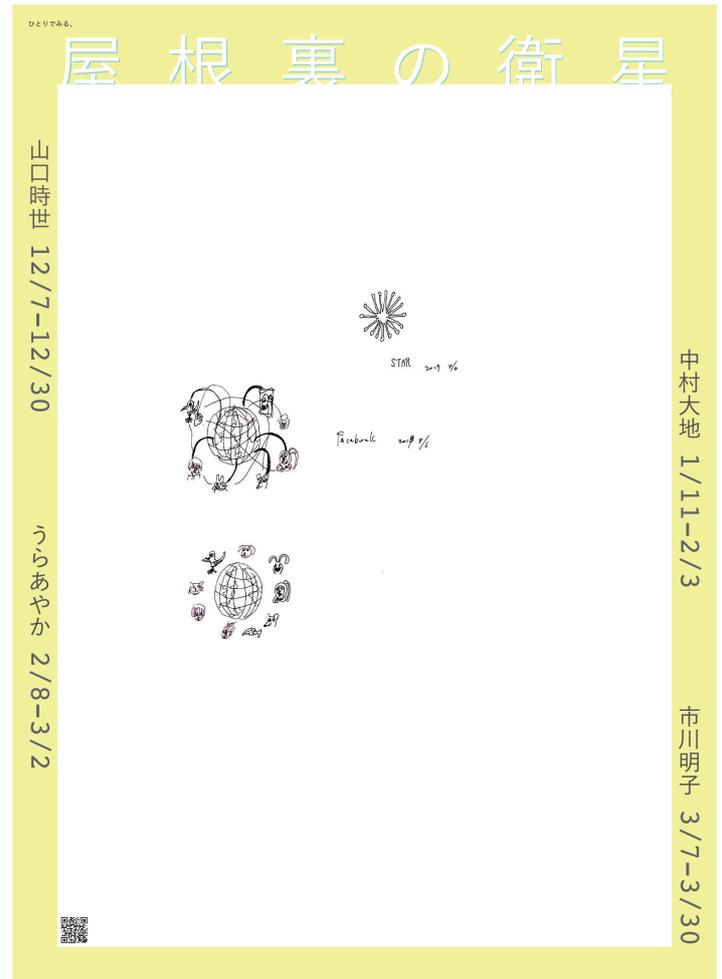
(〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-22-15 2階)

TEL：0422-26-8677

HP：<http://hammock-mitaka.com/>

* 来場前に(上記の)ホームページからカレンダーの確認をお願い致します。

** カフェのためワンドリンクオーダーをお願い致します。



開催概要

東京・三鷹にあるカフェ、Cafe Hammock の普段使われていない屋根裏部屋を会場に、展覧会「屋根裏の衛星」を開催します。「屋根裏の衛星」は、企画者である奥誠之の呼びかけで集まった4人の表現者(アーティスト、演劇家)それぞれの個展を総称したものです。12月7日-3月30日の会期中、4人が交代で個展を行います。会期中には適宜パフォーマンスやトークなどのイベントも加わる予定です。屋根裏のスペースは一度に1~2人しか入れないほど狭いスペースで、しかも鑑賞者は脚立を登る必要があるため、小さい子どもや高齢者、足の不自由な人は鑑賞することができない環境です。そうした条件を踏まえて、親密さ(1人でじっくり作品と向き合う環境)と排他性(非バリアフリーの環境)について考えたいと思います。

■イベント：12月29日 18:00-19:30

山口時世 × 中島水緒 × 奥誠之 トークライブ「私たちの手元で起きること」*

参加費：ワンドリンクオーダー

* トーク終了後の19:30より「引込線/放射線」忘年会も開催いたします。ぜひ合わせてご参加ください(参加費別途)。

石井友人

うしお

土屋貴哉

水谷一

距離

と

伝達

2019-12-14 (sat) ~ 12-28 (sat)

2019-12-14 ~ 2019-12-28

距離と伝達

石井友人、うしお、土屋貴哉、水谷一

このたびgalleryNでは、2008年から埼玉県所沢市を拠点に続いてきた「引込線」の新旧参加作家4名による展示を開催する運びとなりました。

2019年の「引込線」は<引込線／放射線>と名前を変え、所沢の2会場での展示・イベントのほか、書籍、サテライト、ウェブサイトという5つの〈場〉を舞台にした長期プロジェクトとなりました。本展示は、<引込線／放射線>のサテライト企画の一つとして位置づけられます。

本企画は「引込線」に2017年から参加している作家、うしおが“距離と伝達”をテーマに「引込線」過去作品を参照しながら鑑賞できる展示を呼びかけたことから始まりました。うしおは「引込線」における場所と会期に限定されない複数の場＝サテライトに特に興味を持ち、「引込線」本拠地である所沢から離れた場で、さらに過去の「引込線」出品者と“距離と伝達”のテーマのもとで協働としての展示をしてみたかった、と語ります。

うしおの呼びかけに対して各地から応答したのは、2015年参加作家の石井友人（東京都在住）と土屋貴哉（佐賀県在住）、2008年から現在まで継続して「引込線」に参加する水谷一（ドイツ滞在中）です。

個人の生活環境はもとより表現手法や問題意識が異なる4名が、「引込線」過去作品を軸にした“距離と伝達”というテーマを、どのように受け止めて表現をするでしょうか。また、〈場〉と〈時〉において引き込むこと／放射することを試みる<引込線／放射線>というプロジェクトの在り方を、作家と鑑賞者がどこまで拡張し、またどのように個人に還元できるのか、4名の試みをお楽しみ頂ければと存じます。

ご高覧賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

<引込線／放射線>サテライト

<https://hikikomisen-hoshasen.com/satellite.html>

gallery N

名古屋市千種区鏡池通3-5-1

Anxiety Plus

不安障害 +

by James Howard

ジェームズ・ハワード



トーク 栗田大輔

2020年1月12日(土) 19時～

Performance w/ 奥誠之他 Masayuki Oku +: 9:00~

Talk w/ Daisuke Awata: 19:00~ Sat 12 Jan 2020

問い合わせ [kyoko.ebata\(a\)gmail.com](mailto:kyoko.ebata(a)gmail.com)

開場 土・日 13:00~ 19:00 Sat/Sun

および事前予約 and by appointments

会場 House of Ebata

houseofebata.blogspot.com

アクセス JR中央線国立駅南口徒歩5分

<http://q.co/maps/eqnms> * 詳細はお問い合わせください。

2019年12月15日(日)

~2020年1月18日(土)

House of Ebata w/ 引込線/放射線サテライト

<https://hikikomisen-hoshasen.com/satellite.html>

ジェームズ・ハワード (James Howard) が House of Ebata (ハウス・オブ・エバタ) にて最新作『Anxiety Plus (アンキザイエティ・プラス) | 不安障害 +』を発表する。『Anxiety Plus | 不安障害 +』で、ハワードは自身のウェブサイト luckyluckydice.com において、不安障害を抱えて生きる毎日について告白する。その後ハワードは YouTuber として、不安感に対処する方法などを動画で解説するに至る。不安感・不安障害はこれまでにハワードが探究してきたテーマ、ネット上のスパムなど世の中の暗黒をまた別の形で表現しているといえるだろう。本展示では、Youtube の動画から数点を選んで上映、またロンドンからハワードが東京のアーティスト達と遠隔でコラボレーションをし、新作 Youtube 動画および絵画を制作する予定だ。

Youtube に次々に上げられていく沢山の動画を見てみると、ハワードが作家として真剣に生産性を上げようともがいているのか、はたまた私たちがあざわらっているのかわからなくなり、パラノイアの底なし沼にズブズブと飲み込まれていくような思いをする。そんな私たちにハワードはさわやかに「いいね!」を求めている。

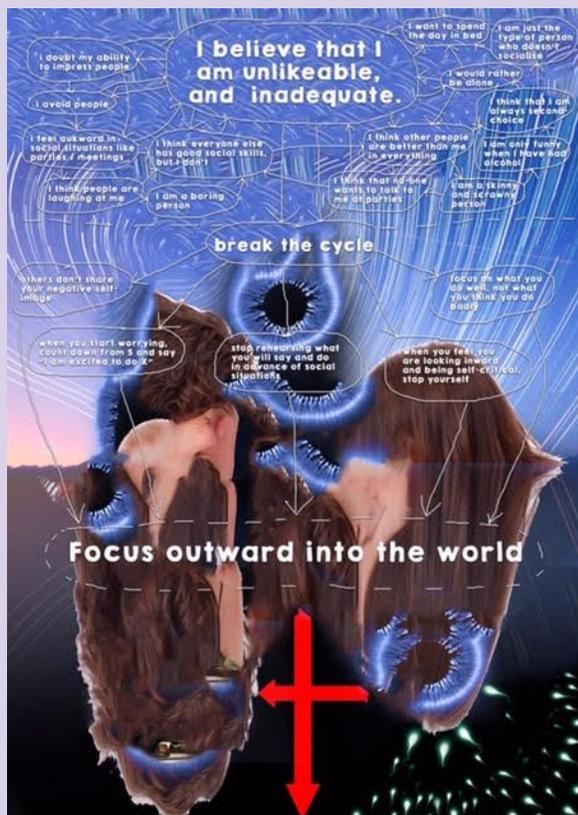
不安障害、不安感の問題は年々深刻な問題になってきている。現代の生活において、口には出さなくとも誰もが何かしらの不安感に悩まされていることは間違いない。近年、その不安感をさまざまな形で自覚せざるを得ない状況に陥ることが今までになく増えてきたように思う。これは命の危険がない状況において避けられない事態なのか?あるいは、この不安感は今までもずっと存在していたが、その感情に名称がつけられただけなのか?いや、それともネット社会における新しい種類の問題なのだろうか?

ハワードは金沢に滞在したことがあり、そこで人生最低の時期を過ごしたと語る。かの有名なジェームズ・ジョイスだけではなく、日本にも芥川龍之介、北杜

夫、中島らも、吾妻ひでおなど、心の病と芸術のロマンチックな関係性を題材とした作家が多く存在する。アルコール中毒者としての作家生活をおもしろおかしく表現した漫画家の滝田ゆうなどは、かつてプロジェクトスペースのある国立に住んでいたことがある。

彼らと比べると、Howardの「不安ハック」はよりゲーム的で脳科学、自己啓発、カルト宗教などを彷彿とさせ、ある意味より現代的であるとも言えよう。実際にYouTube上ではMentalist Daigoをはじめ類似する動画にあふれ、その真否が問われて炎上したりしている。ローマ法王も電子ロザリオでデジタルに挑戦する時代に、元ハッカーと逸話を持つHowardがロンドンの安全なソファから、かつての暗黒時代を過ごしてた極東の地で何を表現するか楽しみである。

江幡京子



House of Ebata presents the new series “Anxiety Plus” by James Howard. After sharing a series of written confessions on this website, luckyluckydice.com, about the truth of living with anxiety, Howard became

a YouTuber. In his videos he talks to his audience how he deals with anxiety, a dark matter of our universe which he has been exploring throughout his works. A set of Howard’s videos will be presented in the show along with new YouTube videos and paintings created in collaboration with artists in Tokyo, in Howard’s absence.

While looking through Howard’s videos, we wonder if he is being completely serious and trying to be productive as an artist, or if he is toying with us. Whichever it is, we eventually get swamped in our own paranoia.

Meanwhile, he keeps uploading videos and asks us nicely to “like”them.

Nowadays, the issue of anxiety is becoming more serious and widespread. Almost everyone is aware of their own anxiety and becoming more conscious about it than everbefore. Is anxiety a sign of humans who cannot deal with peace? Is it just giving name to states which have always existed? Or is it a new issue that has emerged with the internet era?

Howard says in his videos that he hit the “rock bottom” of his life while he was living in Japan. Like the famous James Joyce, there is a long tradition of romantic understanding of the relationship between art and disease amongst Japanese writers and artists, including Ryunosuke Akutagawa, Morio Kita, Ramo Nakajima and Hideo Azuma. Yu Takita, a manga writer who depicted the everyday life of an alcoholic writer, used to live in Kunitachi where the House of Ebata project space is located.

Compared to those literary figures, former hacker Howard’s approach to the “anxiety hack” looks more like brain science

delivered as a set of how-tos. Or even cult teachings which we are more familiar with these days. In fact, there are similar videos on YouTube that come under fire for being inauthentic. In this era when the Pope tries a digital rosary, we look forward to seeing the outcome of Howard's reinterpretation of the darkest times in his life in the Far East and beyond, from a safe sofa in London.

Kyoko Ebata

ジェームズ・ハワード

ロイヤル・アカデミー・スクール卒、ロンドン在住。3年間金沢に滞在、体中に入れ墨を入れて帰国した。

2007年の卒業制作展でチャールズ・サーチの目に留まり、サーチギャラリーのグループ展に度々選ばれる。本年度は『BLACK MIRROR: ART AS SOCIAL SATIRE』に参加。その他国内外で精力的に作品を発表している。

ハワードの作品はインターネットスパム、仮想通貨、不安感など、隠されているが、そこらじゅうに存在するコンセプト的な素材を扱い、よく知っているようで、気味の悪い奇妙な印象を与える。

『インターネットのシステムは未だ開拓期にある。よってデジタル素材を扱う過程で、新しい考え方に出会えるのではないか。インターネットの世界では社会の規範はあべこべになり、この世で生きている意味である全てのエネルギーが奇妙にからみあった羅列として露出される』（ガーディアン紙のインタビューの本人のコメントより抜粋）

James Howard

Howard graduated from the Royal Academy Schools, London, and now lives and works in London. Howard had lived in Kanazawa (Japan) for three years where he covered his body in tattoos before going back home.

In 2007, Saatchi became interested in Howard's work from his graduation show. Howard has since participated in several group shows at the Saatchi Gallery including "BLACK MIRROR: ART AS SOCIAL SATIRE" this year. His works are also shown internationally.

Howard works with conceptual materials that appear hidden but actually exist everywhere in everyday life, such as spam, digital currencies and anxieties, overall giving us a familiar but disturbing impression.

In an interview with Guardian, Howard said "The (internet) systems we have now are still part of the wild west of the internet, (... my) process of manipulating digital materials (is) to open up new ways of thinking. Social norms are turned inside-out, leading to a tangle of surreal juxtapositions which expose all the energy of what it means to be living right now in the universe."

Kyoko Ebata

粟田大輔 Daisuke Awata. Art critic, member of Art Think-tank.

美術批評、芸術学（美術解剖学）、基礎芸術 Contemporary Art Think-tank。論考に第13回『BT／美術手帖』芸術評論募集佳作「榎倉康二における出来事性と層の構成」「書き換えられるシステム」「金縛りと夢」「顔徴」などがある。

奥誠之 Masayuki Oku, artist

アーティスト。絵描きとして活動しつつ、周りの人を幸せにするためにさまざまなコレクティブの活動に参加。精力的にイベント企画などに関わる。2018年東京藝術大学大学院美術研究科卒業、2014年武蔵野美術大学卒業制作展優秀賞 受賞。2016年石橋財団国際交流油画奨学制度助成。主な展覧会に『引込線2017』、『Assistants (OTA FINE ARTS)』などがある。<https://www.okuart.com/>

江幡京子 Kyoko Ebata, artist
アーティスト。House of Ebata主宰 <http://kyokoebata.com>

協力 大久保あり、引込線／放射線サテライトチーム、John L Tran, 池端規恵子、佐賀建、佐野誠 他

2019.01.18

「引込線／放射線サテライト」(仮)

企画：上久保徳子（武蔵野美術大学大学院 彫刻コース一年）

村松珠季（武蔵野美術大学造形学部彫刻学科4年）

時間：16:00 開始予定（1-2 時間）

場所：武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス 2 号館 2 階 はしっこ（冨井大裕研究室）

(〒187-8505 東京都小平市小川町 1 丁目 736)

登壇者：伊藤誠、田中義樹、戸田祥子、中島水緒（敬称略、ゲスト追加予定）

開催概要

「引込線」は 2008 年に「所沢ビエンナーレ・プレ美術展 引込線」として所沢市内で始まった美術展です。7回目となる2019年は「引込線／放射線」に名称を変更し、9月から11月の約2ヶ月間に渡って所沢市内の北斗ビル、旧市立所沢幼稚園にて展示、パフォーマンス、イベント行ってきました。今回はそのサテライト企画として、「引込線／放射線」の参加者である戸田祥子、田中義樹、2008年所沢ビエンナーレ時代の実行委員の一人であり、武蔵野美術大学彫刻学科教授の伊藤誠氏ほかをお迎えし、過去に商業ビルや教育施設として使われていた場所での作品展示、パフォーマンス、イベントを行うということに対してどのような考えを持っているのか。また、企画や広報を参加者自ら行うこと、会期終了後に発行する書籍についてお伺いしたいと思います。